

新たな学校生活のかたち

新型コロナウイルスによる制限も緩和され、コロナ前とはまた違った新しい生活様式での学校生活となっています。今回は、書記局を置かず、実行委員会形式という新しい茂辺地中学校の生徒会活動の取組や、5月20日(土)に行われた第21回茂辺地合同大運動会について紹介します。

書記局から実行委員会形式へ

本校は今年度から教育目標を「生きる学ぶ つなげる」、重点教育目標を「自ら考え、仲間とともに課題を解決する児童・生徒」として、小学校12名、中学校12名の全校合わせて24名の児童生徒と教職員21名でスタートしました。

今年度の茂辺地中学校は、生徒数の減少に伴い、書記局の運営が難しい状況となっています。そこで、新たな取組として、月に一度全校学活を開き、その中で生徒が自主的に必要である委員会(仕事の内容も含む)を考え、話し合いにより進めていく実行委員会形式で生徒会活動を推進しています。



【第1回の全校学活】
話し合い活動の様子

茂辺地合同大運動会

今年度のスローガン

今年度のスローガンは、ONE FOR ALL, ALL FOR ONE(止まるな!走り続ける!!)に決定しました。



【スローガンの看板完成】
うまくでき、達成感で一杯

スローガン委員である中学3年生の塩村彩芽さんと、中学1年生の郷六航さんが全校児童生徒にアンケートをとり、決

定したものです。「一人はみんなのために、みんなは一人のために」、「一人はみんなのために、みんなは一つの目的のために」という意味です。サブテーマには、運動会に向けて児童生徒から寄せられたメッセージを委員がまとめ、紅白のチームそれぞれが一丸となって頑張っしてほしいという願いが込められています。スローガンは小中合同で看板制作チームによって、素敵な看板に仕上がりました。

オリジナルの「茂辺地ソーラン」

曲も法被も世界でただ一つの「茂辺地ソーラン」が、本校の特色ある取組の一つです。本校卒業生の佐野誠一さんのご厚意で4年前にできました。

小中縦割り練習では、4つのグループに分かれて中学生が中心となって練習を進めました。どのグループも、細かい振付の確認をしたり、かけ声を出す練習をするなど、精一杯取り組んでいました。

また、今まではコロナ禍の中で制限がありました。今年度は児童生徒、教師がともに大きなかけ声を出すというところ、最後には中央に集まり、全員で決めポーズをするなど新たなバージョンでのソーランとなりました。練習から法被を着ることでより気分が高まっていました。



【小中合同練習】
中学生が中心となり話し合い活動を行っている様子

運動会本番

晴天とまではいかないものの、予定どおり運動会が開催されました。児童生徒はたくさんのお来賓の方々や保護者、卒業生がいる中で緊張した姿でしたが、紅組・白組両チームとも大きな声援を出しながら全力で競技に臨んでいました。



【迫力ある茂辺地ソーラン】
かけ声を出して気持ちも盛り上がり、
今までで最高の発表ができました。

地域の方々のサポートもあり、前日から当日までスムーズな準備ができました。地域の方々の参加する競技もいくつか設定された中で、白熱する戦いが繰り広げられました。児童生徒も一緒になって応援する姿が見られたりと、小中、そして地域が一緒にスローガンを達成した運動会となりました。



【30秒間の綱引き】
両者一步も譲らない戦いに、会場全体
が熱い声援を送っていました。

(茂辺地中学校 教諭 會津 聡子)